

# 広島県立芦品まなび学園高等学校校舎（39号棟）改築その他工事に伴う 実施設計業務の設計者選定結果について

## 1 選定結果

広島県立芦品まなび学園高等学校校舎（39号棟）改築その他工事に伴う実施設計業務の設計者選定について、公募型プロポーザルを実施した結果、次のとおり候補者と次点を特定しました。

- 候補者 大旗連合建築設計株式会社
- 次点 仲子盛進総合環境デザイン・栄相互設計 設計共同体

## 2 報告

芦品まなび学園高等学校校舎（39号棟）改築その他工事に伴う実施設計業務は、学校の顔としてのふさわしさや、自然環境に対するやさしさ等に配慮した魅力ある公共建築とするために、設計者の発想力を今まで以上に活かすことを目的として、公募型プロポーザルによる設計者の選定を行いました。

### (1) 設計者選定審査委員会

専門知識を有する学識経験者、実務経験者、施設管理者及び行政職員等で構成する「広島県立芦品まなび学園高等学校校舎（39号棟）改築その他工事に伴う設計者選定審査委員会」（以下、「設計者選定委員会」という）を設置し、審議しました。

#### ●設計者選定審査委員会委員（順不同・敬称略）

委員区分	氏名	役職等	審査の視点
委員長	塚本俊明	広島大学産学・地域連携センター 教授	都市計画
委員	久保田秀男	広島国際大学大学院工学研究科 教授	建築計画
委員	杉田輝征	社団法人広島県建築士会 常務理事 社団法人日本建築家協会 会員	建築設計
委員	島村隆義	国土交通省中国地方整備局営繕部整備課長	営繕行政
委員	三好豊彦	福山市建設局建築部長	まちづくり
委員	河原直己	広島県土木局 建築技術部長	建築行政
委員	岡本泰宏	広島県教育委員会事務局管理部 施設課長	主管課

### (2) 公募型プロポーザル関連のスケジュール

- 平成25年 2月 7日 ○第1回設計者選定委員会  
・審査基準等の策定
- 平成25年 2月 8日 ○公募型プロポーザルの公告
- 平成25年 2月18日 ○参加表明書の提出締切  
・参加者8者（内、設計共同体1者）
- 平成25年 2月20日 ○第2回設計者選定委員会  
・技術提案書の提出要請者の選定
- 平成25年 2月21日 ○技術提案書の提出要請  
・要請者5者（内、辞退1者）
- 平成25年 3月 6日 ○技術提案書の提出締切
- 平成25年 3月18日 ○第3回設計者選定委員会  
・ヒアリング・技術提案書の評価  
・技術提案書の特定  
・県への報告
- 平成25年 3月29日 ○設計業務委託契約締結

### (3) 審査概要

#### ① 技術提案書の提出者（一次審査）

参加表明のあった8者からの参加表明書を審査し、得点の高い者から5者を選定しました。

そのうち、1者が技術提案書の提出を辞退しました。

#### ② 技術提案書の特定（二次審査）

一次審査の結果、技術提案書を求めた者のうち、4者から提出された技術提案書の評価及び提出者からのヒアリングにより、技術提案書の特定を行いました。

### (4) 技術提案書の講評

#### ① 総評

今回のプロポーザルは、3部制（午前部・午後部・夜間部）、単位制及び聴講生制度といった特徴のあるカリキュラムを持つ高等学校の管理・特別教室・普通教室棟の設計を対象とするものです。

設計の対象となる建物は、学校の中心施設として、学校の顔にふさわしい施設であるか、既存校舎棟との調和に配慮しているか、生徒・聴講生・地域の人々との交流が深めやすい学校か、自然環境にやさしい施設になり得るか等の視点から技術提案書の審査やヒアリングを行い、技術提案書を特定しました。

#### ② 特定者

東西軸を中心に中庭・吹抜けを設け、南側に普通教室、北側に特別教室や屋上広場を設ける案です。

配置計画において将来の建替を考慮した点や、玄関のキャノピー、既存校舎棟との調和を考慮した渡り廊下、夜間部の生徒も暖かく迎え入れられるようなメディアセンターの明かりのデザイン等、学校の顔としてふさわしい施設という今回の特定

テーマの要件を配慮した点が評価されました。

なお、実施設計の段階でコスト縮減を十分検討すべきであるといった意見が出されました。

③ 次点者

アトリウムを中心配置が印象的な案です。

アトリウムを中心に配置し、南・東側に普通教室棟、西側に管理部門を配置してことにより一体感のある空間としたことは評価されます。

ただし、アトリウムを中心配置に重点を置きすぎたことで普通教室の一部が南面からの自然採光が取れなくなったことや、教室への騒音に対する配慮が必要となるなどの意見が出されており、配置計画についてももう少し考慮するとより良い提案となったと思われます。